



犠牲者18人の名前が刻銘された「仲よし地蔵」に献花する遺族。30日午前、うるま市石川・宮森小学校

# 宮森の犠牲繰り返させぬ

## 米軍機墜落54年 630会が慰霊祭

【うるま】1959年6月30日に旧石川市の宮森小学校に米軍ジェット機が墜落し、児童や住民18人が犠牲になった事故から54年目となる30日、NPO法人「石川・宮森630会」主催の慰霊祭が同校で開かれた。

遺族や関係者200人以上が参列。墜落した午前10時39分に黙とうし、犠牲者の名前が刻まれた「仲よし地蔵」に手を合わせて、「事故を忘れず、未来永劫悲しみの歴史を繰り返さない」と誓った。(37面に関連)

主催者あいさつで豊濱光輝会長は、犠牲者18人の名前を一人一人読み上げた。「なぜ戦後14年たつて死ななければいけないかったのか。あの事故は、沖縄戦の延長線上で起こった」と指摘。広大な米軍基地が今も

沖縄にある状況を挙げ、「沖縄戦は済んだといえるのか。68年たつてもその現実が変わらない」と述べ、「子どもを犠牲にする社会をつくってはいけない」と訴えた。

同小児童を代表して伊波利奏さん(11)が「先輩たちが犠牲になったことを悲しく思う。多くの夢を壊されたことを悔しく思う」と平和の願いを語った。

来賓の島袋俊夫うるま市長は「54年の歳月が経過した今でも、遺族の悲しみが癒やされることはない。この様な惨劇は一度と起こってはならない」と述べた。